

a 学校教育目標	考え、表現し、自ら伸びる生徒の育成 ~自律・尊重・向上~ ~自立・尊重・向上~	b 経営理念 ミッション・ビジョン	【ミッション】(自校の使命) 社会のために役立とうとする志を抱く生徒の育成 【ビジョン】(自校の将来像) 地域に「元気」と「感謝」を届ける誇りある学校
----------	--	----------------------	--

評価計画				自己評価				改善方策		学校関係者評価					
c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	10月	2月	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	n 改善方策	l 評価			m コメント	
					h 達成値	h 達成値					イ	ロ	ハ		
確かな学力の育成	主体的な学びを促す授業づくり	基礎学力の定着 ○「本質的な問い」や「教科の特性を意識した振り返り活動」を取入れた単元構成・単元開発	①標準学力調査「活用問題」の正答率における校内平均と全国平均との比率	1 (100%)以上	①91.2%	①91.2%	①91.2%	①B	標準学力調査の正答率が1以下(全学年) ・昨年度からモジュール学習で数学を進めていた。広島県公立高校入試対策問題(3年)の結果は、数学が地区平均と同等の数値だった。 ・振り返り活動の充実を図り、教職員の授業改善へとつなげることができている。今後、振り返りで見えてきた生徒のつまずきから深まる授業づくり等の推進が必要である。	引き続きモジュール学習の実施と学力向上部を活用した学び直し・復習の場を設定する。 ・研究授業を各教科で行い、全教職員での協議・共有(取組の可視化)また、共有した事後の指導を大切にする。 ・生徒の成果物への評価や他の生徒への共有を多く設定する。 ・引き続き、全国学力テスト・標準学力調査等の分析から課題を絞り、年間通して実践と評価の繰り返しを継続的に進める。 ・前時や既習事項との繋がり、各教科との繋がりをもたせた授業実践の共有を図り、生徒のつまずきから深める授業改善を推進する。	6	イ	ロ	ハ	・目標と改善方策は適正であると思います。その取り組みを徹底させ、全員がやりきることにより、その取り組みが「第五中パターンの」であることを生徒に認識させ、実施することが当たり前の行内体制を築いてください。 ・基礎学力定着について、どこが分かっているのかを明確にすることが必要だと思います。 ・生徒は非常に素直なところがあると思うが、学習意欲が足りないと思います。目標・夢を持たせてほしいと思います。外的な刺激を入れることは田舎の生徒にとってよいと思います。 ・学ぶことの大切さを教えてほしいと思います。 ・毎日家庭学習を行う生徒の割合を限りなく100%に近づけてください。それが当たり前になるよう指導をしてください。
			②実力テスト等における校内平均と全国平均との比率	1回以上	②93.7%	②89.6%	②89.6%	②B							
たくましい心身の育成	自己指導能力の育成 (自ら考えより良く判断し行動する力)	生徒会活動の充実 ○生徒の主体的な取組や頑張りへの肯定的評価 ○集会活動の定例開催と内容の充実 ○地域への貢献活動の促進	⑥「自分には良いところがあります」に対する肯定的な回答率	80%	⑥80.3%	⑥82.4%	⑥100%	⑥A	生徒会活動に加え、学級活動についても各学年で工夫を凝らし、生徒の活躍の場や認め合う場を意図的に作る事ができた。 ・地域行事や地域貢献する場を意図的に作るために、生徒会執行部と教職員、地域との連携をしっかりと行わなければならない。	各クラス単位で、特別活動を通じて生徒の自己肯定感を高められるよう工夫する。 ・学校行事などで活躍する場面を意図的に作る。 ・地域行事の参加を促すとともに、各部活動とも連携を図り、地域行事への参加を検討していく。	6	イ	ロ	ハ	・クリーン活動は第五中の誇りうるものだと思います。地域に貢献できているという気持ちを育成させるためにも自主性を育て、積極的な推進を願っています。 ・生徒が地域行事に来てくれると地域の人は喜びます。子供は地域に大きな力をくれます。地域貢献はよいのですが、意図的にやらないと自己肯定感の高まりにはつながらないと思います。 ・地域情報を学校掲示板で発信するとよいと思います。 ・生徒アンケートにより生徒理解に取り組んでいます。何か気になる生徒がいれば、即時の取組をお願いします。
			⑦生徒アンケートにおける「主体的な地域活動への参加」についての肯定的回答率	90%	⑦54.3%	⑦50.9%	⑦63%	⑦C							
働き方改革の推進	子供と向き合う時間の確保	効率的で組織的な校務運営・業務改善 ○水曜日のかたまり時間を使った学年会・部会等の定例化・活性化、進行管理の徹底と改善 ○ボトムアップによる業務改善の推進、行事等の見直し ○教職員のやりがい	⑨見直し、スリム化、業務改善が実行できた事項、学期に2つ以上	80%	⑨100%	⑨100%	⑨125%	⑨A	1学期:部活動の朝練習をなくし、入校時刻が適正化。夏季休業中の勤務時間繰上げ繰下げ導入で個々の働き方に対応し、退校時刻が早くなった。 ・2学期:職員日報・職員配付資料の一部を紙配付からデータ閲覧に変え、準備時間縮減と検索性向上につながった。保護者連絡にすぐる機能を活用することが増え、終業時の業務の効率化につながった。 ・教職員アンケートで本校への満足度の項目に肯定的に回答した教職員の割合80.0%。	長期休業以外の退校時刻が遅い職員がいる実態があり、業務のさらなる効率化が課題。引き続き、会議の効率化や合理的な報告・連絡・相談を工夫し、生徒と向き合う時間や授業改善の時間を生み出していく。 ・取組による生徒の変容に喜びを見出す教職員のやりがいを、組織的な取組によって向上させていく。	6	イ	ロ	ハ	・働き方改革によりできた時間を生徒理解と生徒の育成、学力の向上に取り組みでいただきたいと思います。 ・教職員の満足度から、業務改善が十分に進んでいないことが伺えます。 ・授業以外の書類作成等、簡素化してはどうかと思います。
			⑩「私はこの学校に満足している」と回答する教職員の割合	90%	⑩93.8%	⑩80.0%	⑩100%	⑩A							
働き方改革の推進	子供と向き合う時間の確保	長時間勤務の縮減 ○上限の目安時間を超えない時間管理の徹底(月45h) ○働く者の意識醸成(ワークライフバランス) ○部活動時間改革の継続、定時退校日の厳守	⑪時間外在校時間 月45時間以内の職員の割合	90%	⑪66.4%	⑪67%	⑪74%	⑪C	時間外勤務が当たり前ではなく勤務時間内に業務を完結させる風土を醸成していく。要する時間・期限から業務に優先順位をつけて効率的に業務を行うことを、全体および個別に指導していく。 ・効率的な報告・連絡・相談を構築していく。 ・それぞれのワークライフバランスに合った年次有給休暇の取得を積極的に推進する。(平日の時間単位取得や休業中の連続取得等)	時間外勤務が当たり前ではなく勤務時間内に業務を完結させる風土を醸成していく。要する時間・期限から業務に優先順位をつけて効率的に業務を行うことを、全体および個別に指導していく。 ・効率的な報告・連絡・相談を構築していく。 ・それぞれのワークライフバランスに合った年次有給休暇の取得を積極的に推進する。(平日の時間単位取得や休業中の連続取得等)	6	イ	ロ	ハ	・自分の仕事を各自が把握して計画的に行っていくことが大事。効率を上げるために、メリハリをつける必要があると思います。 ・根本的に子供のためということは大事にしつつ、働き方改革を推進してください。

【j:自己評価 評価】
A:100≦(目標達成) C:60≦(もう少し)<80
B:80≦(ほぼ達成)<100 D:(できていない)<60

【l:学校関係者評価 評価】
イ:自己評価は適正である。
ロ:自己評価は適正でない。ハ:わからない。